



青春って一瞬の出来事だったんだ「クドカンのごめんね青春！」

ここ最近のドラマは、医療と刑事が席卷しておりまして、それぞれ趣向を凝らした切り口でアプローチしていましたが、この冬ドラマで特筆すべきは「医療でも、刑事でもないドラマが面白かった！」ことです。

抜群の安定感を醸し出していたのが、クドカン脚本のTBS系列「ごめんね青春！」。クドカン脚本と言えば、テーマ・テンポ・テクニクで魅せるさすがのストーリー展開が特徴ですが、今回もそれは健在。タイトルにある通り、「ごめんね」を本作のテーマに据え置き、今や死語なのではと思われる青春ドラマを造り上げました。

主人公である原平助(この名前よくよく見るとダサイ!ジャニーズ(錦戸亮)が演じるとあっても手加減無しのおレ世界)が、かつての過ちを心に秘めたまま、愛する母校を盛り上げて行く。そこに散りばめられる「在校生からのプレゼントである校歌」「地元を走る電車にまことしやかにささやかれる伝説」「仏教とキリストという対比で魅せる学校間の対立」「新しい学校名での新しい合同文化祭」など、"ああ、地元っていいな、青春っていいな"という仕掛け満載。でもそれが若者のものではなくて、大人がほろ苦く思い出す、そして「みんな青春しようぜ」なんていう安直な結末にいかない、大人に寄り添う感じが秀逸。

ユーモア溢れる校歌の歌詞。実際にバンド活動もやっているクドカンの遊び心か、朝ドラのアイドル楽曲から幅広く手がける(?)彼ならではのセンスが光ります。

そしてみんなが「ごめんね」をし、その証として送られる「ごめんねグッズ」が心を安らかにしてくれる地元ラジオ「カバヤキ三太郎のごめんね青春!」。校長との二足のわらじ、カバヤキ三太郎である生瀬さんの低くて渋いボイスがバカ真面目で最高。それにしても生瀬さんってどこに置かれてもかちっとハマるのに、個性豊かで本人が前面に出てくるあのバランスは何だろう。スペシャルドラマ「リーガル・ハイ」で見せた大森南朋の物まね(というのか?)があまりにも面白過ぎて録画を何回も見直してしまった!何度観ても爆笑!そして思い出し笑い必須。アレってアドリブ?アドリブでもゴリゴリの脚本セリフでも、生瀬さんの個性爆発のシーンでした。今思い出しても笑える~。

というわけで、声を大にして言いたいのは、満島ひかりのシスターファッションが可愛い過ぎて、そのうちランウェイを彩る日が来るんじゃないかってこと!神聖なものをちょっとカジュアルに崩す感じは、斬新なのじゃないかな・・・アレは誰のアイデアなのだろうか。

それにしても、毎回独特の世界観を初回からフルスロットルで出すクドカンの完成度の高さに感心し、ドラマってフィクションってこういうものなんだろうとご満悦。途中、視聴率が悪いということでご本人が落ち込んでいるとのニュースがありましたが、そんなの関係ないからね~。いや、伝説ドラマって当時の視聴率はそうでもなかったなんてこと、まあありがちですもんね。うんうん。

今回のドラマの中では、一番清々しくて安心して見られる一時間でありました。朝から見ても、ご飯中に見ても、夜寝る前に見ても、休日でも平日でもぴったりくるのって最近のドラマにはないんですよね。ホント。初回から最終回まで実によくできた青春ストーリーでございました。

ごっつあんです、クドカン!

あたしのNは誰だろう？号泣したのは「Nのために」

あまり期待してないけど、数回見続けるうちにハマっちゃったわ～というタイプのドラマって、1クールに1本あればラッキーってなものですが、TBS系列「Nのために」はまさにソレ。

湊かなえ原作のミステリーということで、さほど期待してなかったのですが(失礼!)原作読んでないし、小出恵介さん出てるし、一応見とこうと思っちゃった程度の1本。金曜日の夜って、飲み会で家族がいなかったりして、ゆっくり1人鑑賞できたりするもんだから、泣けるヤツはちょうどいいですね。思い切りいける！

クリスマスイブの日に、高層マンションに住むセレブ夫婦が殺された。犯人はすぐに捕まったが、その場に居合わせた男女の証言に違和感を覚えた元警察官が事件の真相を追っていく。というおはなし。

証言を元に2つの過去と現在が行ったり来たりする物語だったので、そういう場面展開が苦手な方にはちょっと苦痛を感じるドラマではなかったでしょうか。しかも途中は昼ドラ真っ青の超ドM展開で、主人公である榮倉奈々が貧乏に屈し、大嫌いな女(父親の愛人)に土下座させられたり、精神を病んだ母親から執拗な束縛を受けたりとひどい過去が次々と露呈。

ただ、成功していて瀟洒なマンションに住む現在の彼女のほうが陰があって寂しそうで、貧乏に喘ぎただひたすら家を出ることを考えていた高校時代のほうが生命力に溢れているという対比。それって結局現在の彼女が、あのクリスマスイブからどういう人生を送ってきたのか、あの日何があったのかに通じてくるのだけれど、もう最終回がね。泣けて泣けて。

結局、収まるところに収まった彼女が一度は掴みかけて、でも指先をすり抜けていった大きな大切なものが痛いほど伝わってきて、もう泣くしかない現実。

このドラマの一番のキモは、誰1人として人気先行のなんちゃってアクターがいなかったこと。ドラマの色にもよると思うのだけれど、これほど重厚で暗いトーンのドラマで1人学芸会がいたりすると、どっちらけてしまう・・・が、榮倉奈々さんしかり、小出恵介さんしかり(ただし今回の役柄は少々行き過ぎてたかなあ)、そして一番良かったのが裕福で人柄と育ちの良さがにじみ出る快活なおトコ・安藤を演じた賀来賢人さん。見たときには「あ、朝ドラの兄やんだー」ぐらいしか思わなかったけれど、榮倉奈々さん演じる杉下に想いを寄せるけれど、仲の良い友達関係も崩したくないという微妙で色気のあるおトコ心を見事に表現されていました。

それによって、杉下の気持ちの変化もすんなり入ってきて、無理の無いストーリー展開に引き込まれました。他にも三浦友和、原日出子などしっとり大人ドラマらしき人選。

セレブ夫婦役の徳井義実さんが1人コントだったらどうしようと思っていたけど、さすがのキャリアで二面性のある役を無難にこなし、アニメ声がうざいかと思いきや妻役の小西真奈美さんも不安定な精神状態を危うく怪しく演じていました。

あ、人気絶頂の窪田正孝さんも忘れちゃいけない。贅沢だわ～、杉下!安藤(賀来賢人さん)と成田くん(窪田正孝さん)でしょー、迷うわ～。でもわたしはちゃんと野心があって、健康的な明るさが嫌味にならない安藤を選ぶかなあ(なりきり榮倉奈々)。大学時代の若さ溢れる感じもいいけど、社会人として立派な男に成長した現在の彼もたいそう良かった。

タイトルにもある通り、この物語のテーマは「Nのために」。それぞれがNのためにした行動がそれぞれの将来を決定づけていく。そんな運命の一瞬のすれ違いの怖さを存分に感じられるあたり、さすがの湊作品です。

ただ小説を読んでしまったらドラマを認めるのが難しく、ドラマを見てしまうと小説の世界にひどく邪魔になってきて(登場人物が演じた役者さんに引きずられて)、どちらか一方にしたほうが良いという結論の中、もしチャンスがあったらこのドラマで号泣したことを忘れた頃に出会えるといいなと思う所存。

期待感が薄めだったゆえにか、ミステリーとして10話を駆け抜けた本作は秀逸でした。

というわけで、真剣に全話見たのはまだ最終回を迎えていない安定感抜群の「相棒」を除いては、前章までの二作品でした。

今回は視聴率で言えば「ドクターX」の一人勝ちなのだとか。

やっぱり、就活も就職も転職もままならない不安定な昨今。腕一本で勝負し、権力にも権威にも富にも名声にも決して屈しない一匹狼ってそそられるんだらうなあ。

今回最終回をつまみ食いしただけのわたしが評することではないのだけれど、どちらかと言えば「相棒」も出世や名誉に興味のない杉下右京が、何もできない日影部署にしながら難解な事件を解決していくという、陰のヒーローみたいな役どころで、そういう匂いがするものだから1クールでヒーローは1人でいいだろう、と食指が動きませんでした。

毎回、厄介者扱いされている主人公が一、偉そうにするヤツの失敗を押しつけて、「わたし失敗しないので」の決め台詞とともにばっさばさと問題解決しちゃいー、最後はお褒めの言葉なんていらぬわ～だってあたしは腕だけで勝負してるんだもんーとケセラセラと去ってく・・・とまあこんなパターンなのだろうと。しかもその主人公が、美人でスタイルのいい女とくればこりゃ参ったな。視聴者としては、嫌味な上司に言われたセクハラ発言は、このドラマですっきり上等！明日からまた頑張る！という図式。

一昔前なら、こういう完全無欠の超合金ヒーロー(ヒロイン)は、どこかで大きくつまづいて転んで、そこで人間らしさをかいま見せて引っ張っていく・・・というのが常套手段だった気がするのですが、ドクターXは予定調和をゴリ押ししてるイメージ。「失敗しない」に二言が無い。それはまた違うヒーロー像なのかなとも思ってみるけれど、いかに。

それにしても「相棒」の昔が良かった説を唱える人って、メランコリックなセンチメンタル野郎かと遠くに見ていたのだけれど、久々に昔のを見るともっと杉下右京が鬱陶しくて、みんなを怒らせていて、でもその中で飄々としているのが良かったのだけれど、最近はね、もう認められちゃってる感が半端なくて、こりゃ相棒くんがめちゃくちゃになって不貞腐れて噛み付いてくれなきゃ、新しい風吹かないんじゃないかって思えてくる。今回は、ゴリゴリおぼっちゃんでお偉いさんを父親に持つという若者を相棒に据えたけれど、いいところばかりが見えちゃってておもしろくない。もう少し地団駄踏んで父親にも右京さんにも迷惑かけて手足ばたつかせて欲しいんだけどな～。成宮くんは個人的にいいなと思うので、もちっと頑張る～。

はい、そして一番肩すかしくらったのが、「すべてがFになる」でした。原作読んでいたけどドラマも見てみようって、珍しく思ったけれど、開始10分で後悔しました。それでも我慢して一話目は見たけど、イマイチでしたね～。あれは何だろう。カッコ良く、スマートにしようという根性見え見えだったのがどん引きなのか、そもそも原作が映像化に不向きなのか。どっちもかな。

海外ドラマは「アンダー・ザ・ドーム」としばらく見てないうちにブースとボーンズがくっついていてびびった「BONES～骨は語る～」に夢中。ただし、「アンダー・ザ・ドーム」は少々飽きていて(だって結局ドームから出る出ないってだけでしょ？とか思えてきた笑)、「BONES」は食事中や朝っぱらから見れないという時間限定作品であるために、溜まると面倒になってきちゃ

う危険性アリ。

ただ、海外ドラマって長い上にお金かかっている感が半端なくて、それに比べると日本のドラマの盛り下がりに少々残念な気持ちになってしまう私なのでした。

ドラマ大好き！ドラマで朝時間を充実させたい！ドラマに没頭して日々現実逃避してるんですけど！の私としては、ワッショイドラマ祭りだ！と大声出したいんです、毎回。

わははと楽しめて、ほろりと泣いて、ドキドキして、ワクワクして、ほっとして、キリキリして。そんな日々が一週間に散りばめられていて初めて我がドラマライフ絶賛充実中！と言える気がする！

さあて、2015年のドラマはいかに。ドラマライフの新たな幕開けが今から楽しみ。

LULUの勝手にドラマ談義～2014・冬～

<http://p.booklog.jp/book/93419>

著者：LULU

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/luludary/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/93419>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/93419>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ